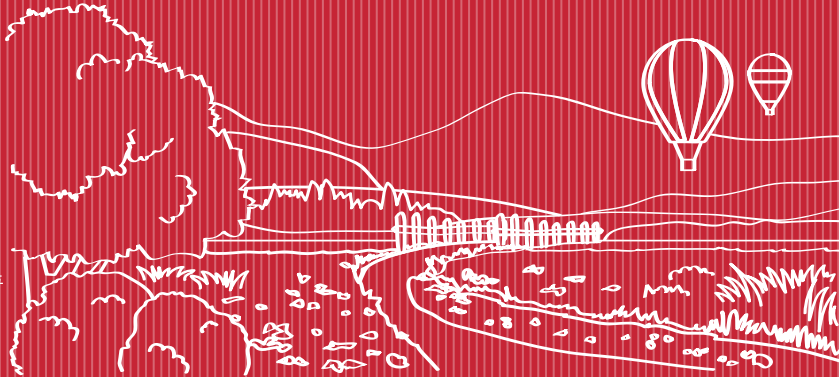


ばんけい

教育ほっとにゅーず
かわら版こみち
教育の小径 No.181
2023 November
11月号

(一財)総合初等教育研究所 参与

北 俊夫先生



今月のことば

猿も木から落ちる

その道に優れた人であっても、時には失敗することがあるということです。類似に「河童の川流れ」「弘法にも筆の誤り」「上手の手から水が漏れる」などがあります。

「地域は学校」とはどういうことか

- 地域には「もう一つの教科書」があり、「もう一人の先生」がおり、「もう一つの教室」があります。地域は「もう一つの学校」だといえます。
- 学校と地域は、地域について学ぶ。地域から学ぶ。地域で学ぶ。地域のために学ぶ。地域とともに学ぶといった、多様な関わりがあります。

地域は教育資源の宝庫

子どもたちが生活している地域には教育的にみてもさまざまな優れた資源があります。その一つは教材です。地域にみられる自然や社会、伝統・文化などの素材を指導目標にもとづいて教材化することで、教育活動や授業の質を高めることができます。また子どもたちは地域理解を深めます。地域は「もう一つの教科書」だといえます。

その二つは、地域にはその道に長けた専門家が住んでいます。それらの人の協力を得て、授業に参画してもらうことにより、授業の質をさらに充実させることができます。例えば地域の自然災害を学ぶとき、高齢者の経験談や防災の関係者の取り組み状況を聞くことで、教科書にはない、その地域ならではの内容を学ぶことができます。子どもたちにとって、地域には「もう一人の先生」がおられるといえます。

いま一つは、地域にはさまざまな学びの場があることです。博物館や郷土資料館、美術館、科学館などの社会教育施設があります。これらの施設で学ぶ機会を指導計画に位置づけて計画的に利用することにより、子どもたちの学びを広げることができます。また、地域の教育施設を生涯にわたって利活

用しようとする意欲や態度の基礎を醸成することにもつながります。地域は「もう一つの教室」だといえます。

このように、地域には「教科書」と「先生」と「教室」が存在していることから、地域は「もう一つの学校」だといえるでしょう。地域に密着した教育活動や授業を展開することは、地域の担い手を育てるうえで重要な取り組みです。各学校で、地域の教育資源の利活用の可能性を検討したいものです。

学校と地域との多様な関わり

学校は社会的な存在です。学校は置かれている地域と無関係に存在することはありえません。学校と地域との関わりを英語の前置詞に置き換えると、次のような5つの視点があります。

まず、自分たちの住んでいる地域について (a b o u t) 知ることです。地域のことが直接の学習内容になります。自然や社会、伝統・文化などさまざまな観点から地域を理解することはきわめて重要であり、地域の担い手として成長するための第一歩です。

次に、地域から (f r o m) 学ぶことです。これは地域のさまざまな素材を教材として活用することです。身近にある素材を取り上げることで、子どもたちは学習に親近感を高めます。こ

れも地域理解につながります。

そして、地域で (a t, i n) 学ぶことです。地域は学習する場でもあります。地域を学びのフィールドとして捉えると、教育活動がさらに広がります。そこでは地域のさまざまな人たちの触れ合いが生まれます。できるだけ、学校から地域に飛び出して学ぶ機会を増やしたいものです。

さらに、地域のために (f o r) 学ぶことです。これは学習成果を地域のために還元することです。地域貢献ともいえるでしょう。公民館の掲示板に子どもたちの作品が掲示されていることがあります。そこには地域のことを学んだ成果が紹介されています。

最後は、地域とともに (w i t h) 学ぶという視点です。地域を学校のパートナーとして位置づけることは、これまでも地域との連携・協力などといわれてきました。地域の一員としての自覚を養い、地域と共生する意識や態度や能力の基礎づくりにつながります。

こうした取り組みはこれまで地域に密着した教育活動の展開とか、地域に根ざした学校づくりといわれてきました。けっして新しい課題ではありません。コロナ禍の影響もあって学校に閉じこもった教育活動や授業が散見される今日、地域と関わることの意義や大切さを改めて確認したいものです。

11月

今月の記念日

29日

いい服の日

岡山市に本社を置く学生服を製造しているアパレルメーカー(株式会社トンプ)が平成22年(2010年)に制定しました。「いい(11)ふく(29)」の語呂合わせです。

学級経営とは何か

子どもたちが学校において生活する最小の単位は学級集団です。小学校の学級には、原則1人の担任が配置されています。

学級経営とは、各学級において担任が営む学習指導や生徒指導、そのほか学級運営全般に関わる教育活動のことです。保護者会の実施など地域との連携や協力を図ることも含まれます。

「経営」と名づけられていますが、一般社会で行われている会社経営や商店経営とは意味や内容が大きく異なります。これらは校長の行う学校経営とも違います。学級担任の裁量で学校予算を執行したり、担任だけの意向で子どもの学級への配属を決めたりすることは学級経営の範疇に入りません。

学級は子どもたちを意図的に成長させる場であることから、学校や学年の教育目標を踏まえて、学級としての目標が設定されます。それは学級の正面などに掲示されます。

かつては、自分の学級を中心に経営する「学級王国」などといわれ、それぞれ特色ある学級づくりが進められたこともありました。いまでは、学年主任がリーダーシップを発揮して、複数教師による協働的な指導体制が重視されるようになってきました。

子どもたちは学級を選ぶことができません。まして学級担任を希望することなどできません。子どもたちと学級担任とは一期一会の出会いです。子どもたちと担任が望ましい人間関係を維持・発展させることが、日々の教育活動や授業をよりよく展開することにつながります。子どもの学校生活を充実させるカギが日ごろの学級経営にあることを肝に銘じたいものです。

子どもの自殺防止

文部科学省は、令和5年7月10日付で「児童生徒の自殺防止に係る取組について」(通知)を発出しました。学校における自殺防止の取り組みは平成18年に定められた自殺対策基本法にもとづいて行われています。

警視庁と厚生労働省の自殺統計によると、令和4年の児童生徒の自殺者数が514人に上り、過去最多でした。今年5月までに164人の自殺者数が暫定値として報告されています。

子どもの自殺者数が増加していることを踏まえて、政府は「こどもの自殺対策緊急強化プラン」をとりまとめま

した。また、新たに閣議で決定された「教育振興基本計画」にも子どもの自殺対策が盛り込まれています。

通知では、児童生徒の心身の状況を把握したり教育相談を行ったりする際に、1人1台端末を活用することが有効な方策のひとつとしています。すでに一部の教育委員会では取り組まれているようです。

通知によると、文部科学省は「1人1台端末等を活用して、無償・有償で利用できる健康観察・教育相談システムを整理」し、Googleフォーム又はMicrosoft Formsを活用してアンケートフォームを作成するマニュアルを作成しました。各学校には、1人1台端末を活用したSOSの早期把握が求められています。



先人の残した言葉

1 東井 義雄

子どものつぶやきが聞こえる。それは、「小学校一級普通免許状」よりも、もっと大切な免許状なのだ。

この言葉は、東井義雄が昭和32年(1957年)に出版した『村を育てる学力』(明治図書)の「パンツ」についての記述のなかに登場します。

この言葉のまえには「子どものつぶやきの聞こえなくなった先生、そんな耳の遠い先生は、先生の資格があるとはいえない」とも書かれています。また、本書で東井は、身体検査の日に、何げなく発した子どものつぶやきを聞き逃したことから、自身が「悲しかった」と述べています。身体検査は当時の子どもたちにとって、いろいろな意味で「特別の日」だったのです。

子どものつぶやきは、インフォーマルな不規則発言ですから、教師は注意

していないと聞き逃してしまいます。または、聞こえていても、厄介な発言として捉え、聞こえていないふりをしてしまうことがあります。つぶやきには子どもの本音や本心が含まれています。つぶやきに耳を傾け、聞き取り、そして真摯に応えることによって、子どもの願いに寄り添った指導が可能になるということでしょう。

また、東井は『学習のつまずきと学力』(明治図書)のなかで「子どもはつまずきの天才である」と述べています。つまずきを否定的に捉えるのではなく、つまずいた背景や必然性を踏まえて、貴重な「教材」として受けとめることの大切さを説いています。

東井氏は昭和47年(1972年)に、兵庫県八鹿町(現在の養父市)立八鹿小学校の校長を最後に退職しました。優れた教育実践家でした。

INFORMATION

教科別しあげ教材



1年間の学習を教科ごと、1冊でまとめて復習!

同じ問題にくり返しチャレンジ!

5年へGO! は教科ごと(国・算・理・社)に「GO!ノート」つき

編集後記

地元のスーパーや食堂で、中学生の「職場体験」に行き会うことがあります。けなげに働く姿に「頑張ってるね」とエールを送るとともに、受け入れてくださる地域の職場の皆さんにも感謝の気持ちでいっぱいになります。こういったことが端緒になり、子どもたちが地域と関わることを意義あるものだと気づいてくれることを願っています。(Y記)

企画・編集：ぶんげい教育研究所
発行：株式会社文溪堂
発行日：2023年11月1日